

『夜はやさし』と「パパ活」に見る

パパ 父と娘の関係性

要旨

氏名：亀谷早紀

1. 研究の目的

研究の目的は、「父と娘の関係性」とは一体何であるのか、を紐解くことである。彼らは、どういう関係で、二人の間には何か特別な空気が流れているのか。健全な関係なのか、あるいは問題を抱えた関係であるのか。そして、一貫してこの二人の関係に見られるものは何であるのか、また、これらは現実の男女関係にも影響を及ぼすものなのか。これらを、題材とする二作品を通じて考察することが研究の目的である。補足として、父と娘の関係を考えるために、父という言葉よりも広範囲で抽象的にしたパパというフレーズを用いることで、彼らの関係をモデルのように概念化して、テーマへアプローチを行う。なお、概念化するのはテーマへのアプローチを容易にするためである。また、父と娘を、パパと娘、とすることで現実の、父親と娘が抱える問題と男女関係が抱える問題を新たに映し出すことができる。よって、パパと娘、というフレーズを用いることになった。

2. 研究方法

F・スコット・フィッツジェラルドの長編小説『夜はやさし』(*Tender is the night*, 1934) と、野島伸司脚本のドラマ「パパ活」(2017年)、この二作品についてテーマーパパと娘を分析することが主な研究方法である。そのほかに、二作品

に關係すると思われる、他作品も取り上げる。他作品の刊行年は、この二作品に近い年に発表されたものや、間をとっているものが多い。F・スコット・フィッツジェラルドの短編小説や、パパと娘をテーマとした日本の小説などである。また「パパ活」については新現象であるため、映像作品（番組）やホームページも参考資料とする。本論のそれぞれの章でテーマとするワード（ピグマリオン、インセスト、孤独）に絡んだ文学作品も取り上げて、二作品への言及を深める。とくに、パパと娘のインセストをキーワードにした第3章では、精神分析的見地から、どのようなことが言えるのか、ということ考察した。

3. 発見したこと

『夜はやさし』と「パパ活」という、1世紀前のアメリカ、そして現代日本社会という、時代・文化的背景が異なる作品を比較の対象とした。パパと娘、このテーマを掘り下げる上で、共通点もあるが相違点もあることがわかった。しかし様々な異同がある中で、一貫して見られるものがあった。パパは娘のピグマリオンであり、二人の関係にはインセストという不安もつきまとう。そして彼らの抱える行き場のない孤独が、インセストという罪に走らせてしまう恐れもあるということがわかった。そして娘は、ある時が来ると少女から大人の女性へ成長する。このことも二人の関係に影響を及ぼすことも発見した。しかしながら、娘は大人の女性になっても、パパという存在感を別の男性に求める傾向もあることも判明した。最終的には、時代・文化的背景が異なっても、パパと娘の関係にはある普遍性があるという結論に至った。